



# 十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第67号

INAZO NITOBE 1862-1933

写真について詳しくは当館の展示をご覧ください



## 生誕150年—新渡戸稲造の志から学び、共に実践しませんか



十和田市立新渡戸記念館・十和田市教育委員会 共催 協力:Kyosokyodo (共創郷土)  
 新渡戸稲造生誕150年記念 講演会  
 平成24年度 新渡戸塾 第2講座 “今学びたい新渡戸稲造のおしえ”



「光は東北から—日本復興のさきがけ—」

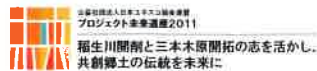
講師：大阪市立大学名誉教授 佐藤 全弘 先生

- 日時：平成24年10月28日(日)18:00～19:30 ※聴講無料
- 会場：十和田市民文化センター 視聴覚ホール (定員300名)

昨年の大地震、大津波、とりわけ原発災害のもつ意味を江戸時代から今に至る「東北に対する冷遇」と関連させて考え、新渡戸稲造が東北(雪国)に寄せる熱い思いに学びつつ、苦難を経てきた東北だからこそ、日本を立て直す根本的精神が発露されるべきことを、新渡戸の強調する三徳にてらしてお話しくださいます。日本の新しい文化—生活の根本精神—を創造する任を東北が負っているとの確信を訴えます。

【講師プロフィール】 昭和6年大阪市に生まれる。大阪市立大学文学部卒。同大学助教授、教授。1994年定年退官後、同大学名誉教授。同年、関西外国語大学教授、2002年退職。キリスト教愛真高校理事長。なにわ聖書研究会主宰。2009年新渡戸・南原賞受賞。カント哲学を中心とした西洋哲学全般を講じるとともに、倫理学、医の倫理、環境倫理、人権問題など幅広く講義する。おもな著書に『カント歴史哲学の研究』『新渡戸稲造—生涯と思想—』『新渡戸稲造の信仰と理想』『新渡戸稲造の世界』訳書『武士道—日本の心—』(新渡戸稲造 著)ほか多数。『新渡戸稲造全集』(全23巻別巻2巻)の編集委員であり、新渡戸稲造研究の第一人者である。

### 太素の水プロジェクト



Kyosokyodo (共創郷土) 主催

『未来遺産十和田 市民共創のウォーキングマップ事業』  
 稲生川ウォーキングコース研修

- 1 稲生川ウォーキングコース研修 勉強会(歴史・稲生川) 日時：9月29日(土) 14:00～15:00 場所：当館  
 講師：水土里ネット稲生川 阿部 俊 主任ならびに当館学芸員 内容：稲生川に関する郷土学習について **済**
- 2 稲生川ウォーキングマップモニターツアー 日時：10月6日(土) 8:30太素塚集合 9:00出発 15:00解散  
 見学コース：稲生川取水口～一本木沢ピオトープ(一部バス使用) 講師：水土里ネット稲生川 阿部 俊 主任  
 参加費：1000円(昼食・資料・保険代の実費) 注意事項：歩きやすい服装で参加 定員：30名
- 3 稲生川ウォーキングコース研修 勉強会(文化財) 日時：10月13日(土) 14:00～15:00 場所：当館  
 講師：十和田市教育委員会 大久保 学 学芸員 内容：稲生川周辺の文化財について  
 ★10月～11月中に「健康」と「ウォーキング」のテーマで勉強会を予定。

稲生川沿線の写真を  
 公募します！

採用された写真は、稲生川ウォーキングマップや太素の水プロジェクトのパンフレット、サイトなどに撮影者ペンネームなど記載の上、使用させていただきます。

※詳しくは下記事務局までお問い合わせください。

### 「太素の水」保全と活用連合協議会 主催 『稲生川フォーラム』

日時：平成24年11月17日(土) 13:30～16:30  
 場所：十和田市東公民館ホール

こちらも現在進行中です！

- ★「太素の水プロジェクト サイト」市民による立ち上げ
- ★「太素の水プロジェクト パンフレット」作成

「太素の水プロジェクト」お問い合わせは 「太素の水」保全と活用連合協議会事務局 TEL 0176-23-4430 (新渡戸記念館内)

新渡戸稲造生誕150年記念 新渡戸塾連携展

## THE INAZO NITOBE 展

会期：10月16日(火)～12月28日(金)  
 場所：十和田市立新渡戸記念館 一階企画展示コーナー

主催：新渡戸記念館 協力：Kyosokyodo (共創郷土)

新渡戸稲造ってどんな人だったのかな？好きなものは？嫌いなものは？ファッションは？勉強はどんな風にしたの？偉人・新渡戸稲造の身近な“素顔”に迫ります。(青少年も楽しめる企画展です)





# EVENT 開催報告

新渡戸記念館・市教育委員会 共催  
協力：Kyosokyodo（共創郷土）

新渡戸稲造生誕150年記念 講演会

## 平成24年度 新渡戸塾 第1講座

未来を創る開拓精神 未来に遺す共創都市十和田

講師：国際基督教大学名誉教授 石川光男 先生（Kyosokyodo顧問）

■日時：平成24年9月16日（日）18:00～19:30 19:30～座談会

■会場：十和田市民文化センターA V総合スタジオ

### 水土里ネット稲生川 協力 新渡戸塾 稲生川穴堰ツアー 鞍出山穴堰(トンネル)に残る昔の掘削部分を見学します

■日 時：11月14日（水）8:30太素塚集合（9:00太素塚出発 12:00太素塚解散）

■定 員：20名（対象・一般） ■参加費：実費300円 ■申し込み：11月11日（日）締め切り

※水路には大人の膝ぐらいの深さまで水があります。身長、特長などの装備でご参加いただき、足元にお気をつけ下さい。  
※申し込み・お問い合わせは新渡戸記念館へ（TEL・FAX0176-23-4430）



※石川先生のプロフィールは「記念館だより」第64号1面をご覧ください。

#### 一ご講演概要一

- I. 伝統の衰退：日本の危機・地域の危機
  1. 視野の縮小：個の重視・経済至上主義
  2. 「日本の誇り」の喪失
  3. 自然制御の幻想
  4. O×思考：欧米追従、人間中心、数量重視
- II. 100年後の未来（未来遺産）：志の共有化
  1. 具体的目標←「志」の具現化
  2. 十和田の伝統・日本の伝統
  3. 伝統の革新・不易流行
  4. 世界をつなぐ文化のかけ橋
- III. 共創都市の創造
  1. 新しい地域文化の創造  
十和田ブランドの開発  
祭り、イベントの拡大・創設
  2. 地域内外のネットワークの形成
  3. 人間の復興：自立・自律、心技体の一致  
目的達成型・使命追求型

地域づくりを考える上で重要な事として、二宮尊徳の「遠くをはかる者は富み 近くをはかる者は貧す」、荀子の「先義後利」、石川先生自身の「深く図るものは成る」の言葉を引き、共通するのはまず人間としての生き方を立てることで、それが後の利益につながるお話下さいました。しかし、現代は私の幸せ、今の幸せしか考えない傾向が強くなり、これは明治の近代化以降の欧米追従の変化がもたらしたものと説明下さいました。

近代化以降の変化として、欧米型の“自由と平等”ばかり教えられ、“個の重視”と“経済至上主義”“自然制御の幻想”と、O×の“二元思考”“人間中心、人間至上主義”が浸透し、日本文化の伝統の衰退が著しい。過去に学ぶこと、歴史に学ぶことが忘れられ、日本人としての誇りが失われている。三本木原開拓にも見られる「公」に尽す「志」は日本の伝統であったし、日本には古来から「産霊（むすび）」という自然界のものを生み出す霊妙な働きを尊ぶ“自然畏敬”の考え方があり、それを見直すことが日本再生の鍵となる。西洋と東洋の文化は全く異質であり、どちらが良いということではない。しかし、西洋文化は自分と異なる文化を「遅れたもの」と捉える傾向がある。我々は全く違う文化として“日本文化”が存在することを理解する必要があると話されました。

#### 【講演会後のアンケートから】

- ◆未来遺産を守るためには自我の欲を後にして皆の幸せを考えること。大切な郷土（十和田）を守る為に一人一人が自分勝手な行動を捨て、どうすれば未来の為に出来るのか、私はこの十和田市に住んで42年、これからはお世話になったこの地十和田の為に何をすればよいのか、「公」に尽くして行きたいなと思いました。
- ◆十和田市の未来のため“深くはかる”志を持った行政マン、市民が増えるように、一市民としてできることは何か、考える意識を持つ機会となりました。ありがとうございます。
- ◆悩むことから始まる。心を一つにしてやること。みんなの意識意欲を高めること。日本には産霊（むすび）があると意識していかなくとも、そんな自分がいたことを知った。笑いが大事、どんな時も笑うこと、そうしたことが大きく影響しているんだと改めて知った。

未来遺産登録になった十和田市において、十和田の伝統を日本の伝統として見直し、新渡戸稲造の「志」を知識として理解するのではなく、市民一人ひとりが、今の生活にその「志」（＝自分以外のもののために生きる心）を落とし込んで何が出来るか考えてほしい。開拓を志した新渡戸傳の生き方は、自分の欲（小欲）を捨て「大欲」に目覚めてそれに人生をかけたものである。これは、近代以降の“自我の文化”ではなく、日本古来の“無我の文化”の所産であり、ぜひそこから学んで欲しいと話されました。

石川先生が創られた言葉「いのち」（自然が持つ自律的秩序形成機能）についてお話し下さり、全ては“つながり”と“はたらき”と“バランス”で、それを理解し、学び、活かすあり方が大切であることを、遺伝子や免疫機能などを例にお話しになりました。

十和田市の地域づくりへのアドバイスとして、地域の伝統を伝えるには、新しい伝統の創造が大切であり、今ある小さなお祭りを大きくするなど、新しい十和田ブランドを自分たちの手で創ることを勧められました。又、今の我々は真に「考えること」をほとんどしていない。「考える」とは正解が何か分からないことを考える事で、そのために答えの出ない問題を脳への宿題として常に与え、大いに悩んで脳を働かせることが大切と話されました。 ※ご講演の全記録は記念館にありますので、興味のある方はどうぞお越し下さい。

## トピックス 十和田市秋まつり・中央町内会わ組が太素塚で御神輿出陣式

十和田市秋まつり初日9月7日（金）稲生町中央町内会・わ組が太素塚で御神輿出陣式を行い、十和田祭唄（地固め唄）を太素塚に奉納して安全を祈願しました。太素塚での出陣式も16年目を数えました。新しい伝統が根つき、活気ある秋まつりが続くことを願っています。

中央町内会・わ組の  
十和田祭唄（地固め唄）奉納



## 平成24年度第I期 博物館実習生のみなさん

それぞれ10日間で各自得意分野を活かし、課題と実習に取り組みました

7月24日（火）～8月4日（土）

山形県立米沢女子短期大学 日本史学科  
2年生 仁和久里夢 さん



お話し会の紙芝居作成と、稲生塾運営のアシスタントを務めました。

学芸員の仕事の大変さとやりがいを感じる事ができました。（仁和）

8月4日（土）～8月16日（木）

北里大学獣医学部 生物環境科学科  
4年生 蝦名里咲 さん



まち探検のアシスタントと稲生塾記録作成を行いました。

特に博物館と地域の関わりや教育普及について学ぶことができました。（蝦名）

9月4日（火）～9月14日（金）

北里大学獣医学部 生物環境科学科  
4年生 安田暁彦 さん



太素塚マップのデータ更新とTHE INAZO NITOBÉ展プラン作成をおこないました。

企画展プランがどう活かされるか楽しみです。（安田）



# 平成24年度 新渡戸塾こども講座

新渡戸記念館・市教育委員会 共催  
人づくり・地域づくり塾



【協力：新渡戸記念館ボランティア  
Kyosokyodo(共創郷土)】

## 1 新渡戸稲造の武士道精神をまなぼう！—開講式— 6月23日(土) 13:00~16:30 [場所：十和田市南公民館]

開講式で小山田久十和田市長と新渡戸館長から活動への激励の言葉をいただいた塾生たちは、『こども武士道』の著者・高橋和の助先生を講師に、友だちづくりカードを使って交流し、武士道で考える実践演習では自分なりの意見を活発に出し合いました。最後には「こども武士道オリジナル名刺」を子どもたちが交換し合い、塾生同士の親睦を深めました。3年目の今年は、稲生塾卒業生である中学1年生の参加もあり、グループのまとめ役となってくれました。



## 2 150年まえの大灯灯をつくろう！ 7月7日(土) 15:00~21:00 [場所：太素塚~十和田シティホテル駐車場]

塾生およそ40名と一般の方にご参加いただき「工作屋台村」村長・吉田紀美男氏を講師に、150年前の「大灯灯祭り」について勉強した後、新渡戸傳と新渡戸稲造の顔の切り絵をはった大灯灯に塾生みんなで彩色しました。夜には「キャンドルナイト in 十和田2012」を行い、稲生塾出前講座で高清水小学校の生徒が作ったキャンドルを含め300個を太素塚境内から参道にかけて並べ点燈しました。およそ100名の方にご参加いただき、お楽しみ会では太素塚探検クイズで盛り上がりました。



## 3 太素の森のお話し会・ちょっぴり怖い十和田のミステリー 7月28日(土) 9:00~12:00 [場所：太素塚]

塾生ほか40名が参加し、昔のおやつドンキミを食べながら新渡戸傳を導いたきつねの物語『稲生川ときつね』、十和田市洞内に伝わる巨人骨伝説をもとにした『箭受の杜』(原作：Kyosokyodo 澤口騏三夫氏/絵：福澤健悦氏)の歴史民話紙芝居を聞きました。ボランティアの協力で「手焼きせんべい」や昔遊びの体験をグループに分かれて行い、子どもたちは地域の歴史や文化に親しみました。



## 4 とわだ時空調査隊—まちの魅力を伝えよう！— 8月4日(土) 9:00~16:00 5日(日) 9:00~12:00

8月4日(土)中央公民館で、稲生町出身の平野郁太郎氏よりまちの歴史をお聞きました。その後、稲生塾生17名と大人15名でビデオ撮影の1班と壁新聞作成の3班に分かれ、それぞれのお店の宝や魅力をインタビューし、翌日(8月5日)およそ2時間半かけて壁新聞とビデオにまとめました。今回はカメラマンの佐藤淳氏、デザイナー村井克明氏の協力でビデオをすぐに編集してYouTubeにアップし、全世界に情報発信しました。菓子司しぶたまさま、なりけ印房さま、自転車専科ナカムラさま、ぬまおかカメラさま、加藤竹材店さま、まち探検へのご協力ありがとうございました。



企画を支えたボランティアの皆さま、書い中、子どもたちの安全確認とサポートありがとうございました。

### 【稲生塾生の壁新聞】



竹カメ新聞



飴調査隊新聞



九火新聞



YouTube 寺子屋稲生塾 検索

寺子屋稲生の壁新聞について「東奥日報」「デーリー東北」の地元新聞記者の方々から講評をいただきました

### 【子どもたちのまち探検活動全体への講評】

**デーリー東北** 記者をしている私も「へえ」と驚くような“ネタ”ばかりで、3紙とも興味深く読みました。これからの十和田市を担う子どもたちが、地域の歴史に触れる意義は大きく、今後も興味を持ち続けてくれることを願っています。個性あふれる老舗商店で子どもたちが見つけた「地域の宝」。画一化が進む地方都市においても、足元を見つめなおすこうした活動にこそ、まちづくりのヒントが隠されていると実感しました。(デーリー東北 十和田総局・若淵修平 記者)

**東奥日報** ※各壁新聞への講評は「壁新聞展」にてご覧下さい。  
とわだ時空調査隊の活動は、子どもたちにとって、地域の魅力を発見する貴重な機会です。街の歴史とともに歩んできた大先輩の話を聞き、感じたことや伝えたいことを壁新聞にまとめることで、地域への愛着や誇りも芽生えることでしょう。街を元気にするにはどうすればいいか、失われつつある伝統を次世代に引き継ぐために何ができるのかを考え、行動するきっかけになることを期待します。(東奥日報 十和田支局・藤田慎慈 記者)

★寺子屋稲生塾 壁新聞展★ 場所：青森銀行十和田支店ロビー 期間：11月30日(金)まで

### 新渡戸塾こども講座 寺子屋稲生塾 これからのスケジュール

プログラム 5 世界と友だちPART② チェコ共和国  
—料理・音楽などの文化体験—  
■日時：平成24年11月10日(土) 9:00~12:00  
■会場：十和田市中央公民館 ※材料費のみいただきます。  
■内容：チェコ共和国の文化体験と交流

プログラム 6 書の心は武士道の心  
【閉講式】 —書道&茶道体験—  
■日時：平成24年12月1日(土) 9:00~12:00  
■会場：十和田市中央公民館  
■内容：書道、茶道で心を落ち着け、一年の活動を振り返ります

お申し込み・お問い合わせは 十和田市立新渡戸記念館 (TEL0176-23-4430) 十和田市教育委員会 生涯学習課 (TEL0176-72-2313)



# mini NEWS

## 資料の寄贈

- ・道家昭彦氏(川崎市)『南船北馬』(道家充之氏直書 新渡戸稲造博士同行 南洋調査渡航記録) 1点
- ・平野郁太郎氏(十和田市) 刀剣 1点
- ・関根幹雄氏(兵庫県立大学客員研究員) リコリス球根 22種 75個

## 太素塚清掃奉仕

- ・6月3日(日) 7月1日(日) 8月5日(日) 9月2日(日) さわやかクラブ様
  - ・5月7日(月) 9月20日(日) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様
- ありがとうございました

## 関連情報

### 国際的陶芸家でデザイナーの大樋年雄先生が来館

平成24年7月6日(金) 当館館長と親交のある陶芸家でデザイナーの大樋年雄先生(大樋焼本家十代長左衛門窯後継者)ご夫妻が、「市民大学講座」(主催:十和田市教育委員会)開講基調講演「危機の時だからこそ支えてくれる文化」のため来十し、講演に先だち来館されました。南部公にも献上された開拓時代の焼物の試作品と、当時使用されたといわれる粘土を見ていただいたところ、再現したら面白い!と、十和田の粘土で焼物を作って下さることとなりました。海外でも各地の粘土で作品を制作する大樋先生の手で、復活する焼物が楽しみです。



大樋先生(中央) 奥様(むかって左)と



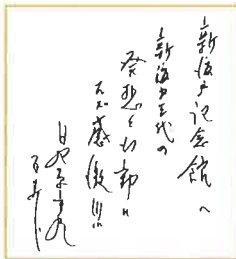
大樋先生の色紙

### 日野原重明先生、高木慶子先生ご一行が来館されました

平成24年8月25日(土)~27日(月)十和田市立中央病院事業管理者蘆野吉和先生の尽力により「日野原重明先生・高木慶子先生と行く 世界遺産平泉・未来遺産十和田のスピリチュアルな旅」が開催されました。26日(日)に来館された日野原先生、高木先生ご一行は、館長の案内で稲生川の歴史と稲造博士の資料に興味深くご覧になりました。又、バス車中では Kyosokyodo(共創郷土)メンバーの蘆野潤子氏による十和田の歴史と未来遺産運動の解説にも熱心に耳を傾けられていました。10月には101歳を迎えられる医師・日野原先生からは軽井沢で2度稲造博士と会ったエピソードをお聞きすることができました。



館長の解説に耳を傾けるご一行



日野原先生の色紙

### デーリー東北新聞に「新渡戸稲造生誕150年・武士道はいま」(平成24年5月~12月リレー連載/日曜紙面)が掲載されています。

Kyosokyodo(共創郷土)ホームページが10月にOpenします! [kyosokyodo.jp](http://kyosokyodo.jp)

### 稲生川灯ろう流し開催

8月16日(木)「稲生川灯ろう流し」を、太素顕彰会、十和田商工会議所、(社)十和田市観光協会が共催しました。多くの市民が見守る中、19時頃から200個の灯ろうが流され、稲生川が幻想的な光で照らされました。



### 盛岡市先人記念館「ゆかりの地探訪ツアー」ご一行来館

稲造生誕150年の企画で、9月6日(木)と13日(木)に、盛岡市先人記念館菊池直館長はじめ「先人のゆかりの地を訪ねる旅」ご一行(計50名)が来館されました。今後も花巻・盛岡・十和田の連携を深め、広く活かし合えるよう協力していきたいと思っております。

## 活動報告

### 博物館関係会議に館長が出席

- 6月25日(月)青森県博物館協会理事会総会(青森市)
- 9月20・21日(木・金)日本博物館協会東北支部並びに東北地区博物館協会総会研修会(盛岡市)

### 館長講演会・講師

7月30日(月)青森県退職校長会上北支部会員研修会(演題:我々が創る未来「時代を切り拓いた芸術家フランツ・リスト」)/9月15日(土)一本木沢ピオトープ協議会『トンボ博士になろう』観察会講師/9月19日(水)仙台金融経済懇話会9月例会(演題:未来を切り拓く力、公に尽くす志~未来は私たちの手で~)

### 音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

『音楽現代』8月号に「コルトーの生涯と芸術」と題し評論を、7月号に「イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノリサイタル」(5月11日六ヶ所村スワン) 9月号においらせ町カワヨグリーンロッジで開催の「E・J・ロッティンゲン来日コンサート with 後藤麻衣」(6月24日)「岡田奏ピアノ・リサイタル with 岡田照幸」(7月7日)の演奏会批評を執筆。8月14日(火)~21日(火)開催のイカール国際ミュージックキャンプ2012 in 函館(主催:函館国際室内楽アカデミー)に招かれ取材。9月25日(火)~27日(木)チェコ音楽コンクール(チェコ共和国大使館ホール)ピアノ部門で審査員を務めました。

### 平成24年度「太素の水」保全と活用連合協議会役員会ならびに定期総会を開催

6月13日(水)17時30分から平成24年度「太素の水」保全と活用連合協議会役員会・定期総会を水土里ネット稲生川2F会議室で開催し会則改定案、事業計画案、収支予算案等が審議、可決されました。

### 平成24年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

6月26日(火)10時30分から平成24年度第1回太素顕彰会定期総会を十和田商工会議所5F会議室で開催し、平成23年度事業報告、収支決算報告が、原案通り可決されました。

### 編集後記

今年の夏は暑かった。十和田でも35度を超える日もあった。館長になって半年、開拓の歴史、音楽、文化、生物関係など、講演を依頼されることが多くなった。様々なテーマ、分野、新たな人との出会いもあり、楽しく感謝の思いである。ここ数日ようやく涼しくなり、いよいよ秋。記念館の庭に黄金色の木の葉が舞い散る頃だ。(館長 新渡戸常憲)

### ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00~午後4:00
  - ・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館)年末年始(12/29~1/3)
  - ・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
  - 小・中・高校生52円(団体42円)※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して

十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL [www.towada.or.jp/nitobe/](http://www.towada.or.jp/nitobe/)

発行日

2012年10月1日

編集・発行

太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
Tel & Fax : 0176-23-4430  
Email : [nitobemm@hi-net.ne.jp](mailto:nitobemm@hi-net.ne.jp)  
株式会社 岩間印刷

印刷